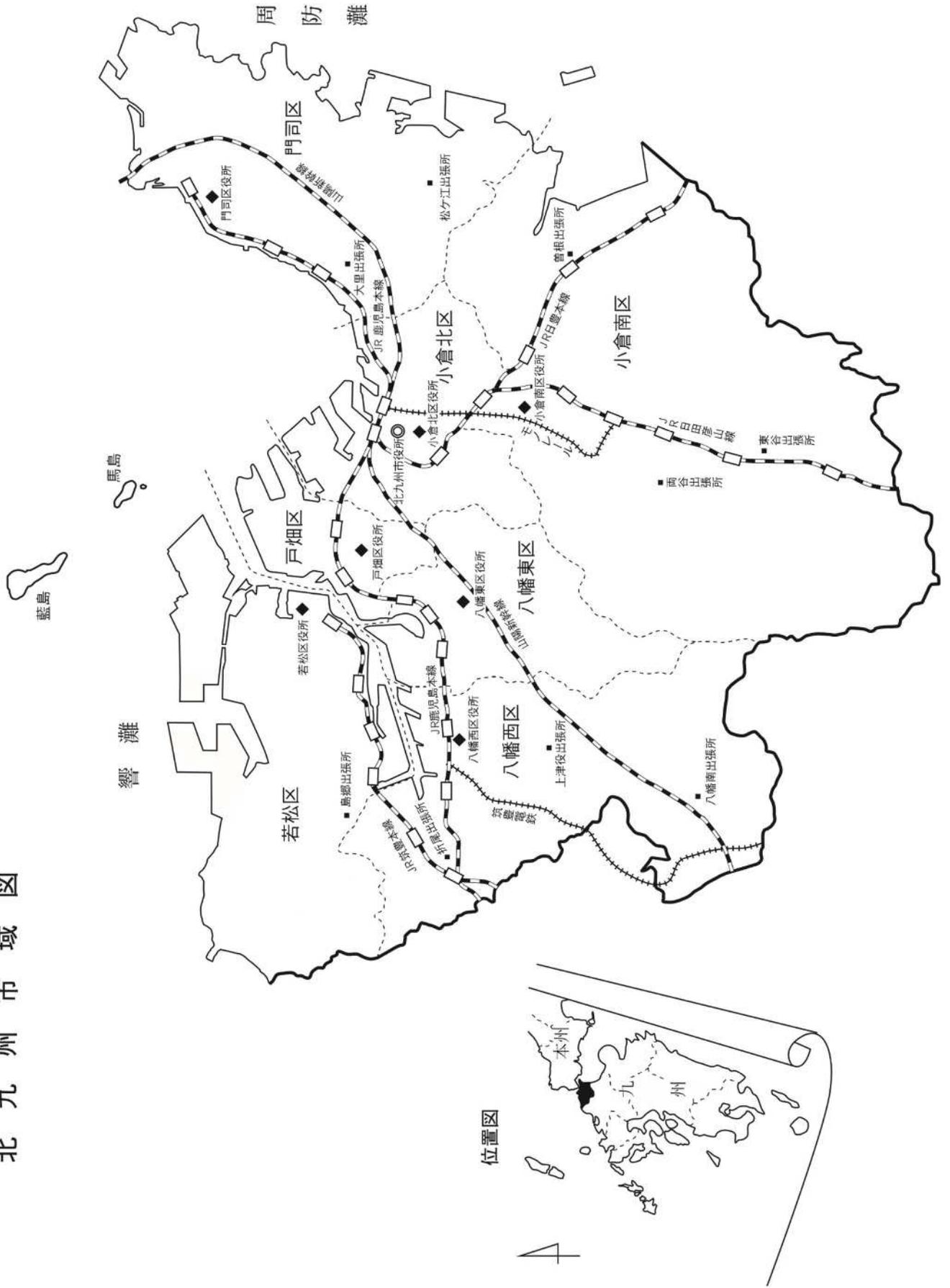


# 北九州市区域图



## 北九州市の地勢

各区の広ぼう（令和5年10月1日現在）

行政区	方位	地名	距離	方位	地名	距離
北九州市	東端	小倉南区空港北町	km 33.8	南端	小倉南区大字頂吉	km 33.4
	西端	若松区大字乙丸		北端	若松区大字安屋	
門司区	東端	門司区大字白野江	10.1	南端	門司区大字恒見	14.3
	西端	門司区松原三丁目		北端	門司区太刀浦海岸	
小倉北区	東端	小倉北区大字富野	12.7	南端	小倉北区山田町	18.3
	西端	小倉北区大字藍島		北端	小倉北区大字藍島	
小倉南区	東端	小倉南区空港北町	22.2	南端	小倉南区大字頂吉	16.5
	西端	小倉南区大字道原		北端	小倉南区大字吉田	
若松区	東端	若松区響町一丁目	15.9	南端	若松区南二島三丁目	16.0
	西端	若松区大字乙丸		北端	若松区大字安屋	
八幡東区	東端	八幡東区山路松尾町	6.5	南端	八幡東区大字田代	10.8
	西端	八幡東区大字田代		北端	八幡東区大字前田	
八幡西区	東端	八幡西区大字畑	11.1	南端	八幡西区星ヶ丘五丁目	14.5
	西端	八幡西区三ツ頭二丁目		北端	八幡西区本城学研台三丁目	
戸畑区	東端	戸畑区大字中原	5.9	南端	戸畑区西鞆ヶ谷町	6.7
	西端	戸畑区牧山海岸		北端	戸畑区大字中原	

資料：国土交通省国土地理院

各区の標高（令和5年10月1日現在）

行政区	最高地点	海拔高
北九州市	福智山	m 900.5
門司区	戸ノ上山	517.8
小倉北区	足立山	597.8
小倉南区	福智山	900.5
若松区	石峰山	302.5
八幡東区	皿倉山	622.0
八幡西区	権現山	617.3
戸畑区	金比羅山	124.8

資料：国土交通省国土地理院



市域の変遷状況

市(区)名	年月日	編入地域名	累加面積
門司	明 22. 4. 1	町村制施行により、小森江村・門司村・田野浦村を合併、文字ヶ関村となる	km <sup>2</sup>
	〃 27. 8. 1	町制施行により、門司町と改称	
	〃 32. 4. 1	市制施行	11. 32
	大 12. 2. 1	企救郡大里町を編入	25. 07
	昭 4. 11. 1	企救郡東郷村を編入	41. 68
	〃 17. 5. 15	企救郡松ヶ江村を編入	65. 76
小倉	明 22. 4. 1	町村制施行により、小倉町・長浜浦村・平松浦村を合併、小倉町となる	
	〃 33. 4. 1	市制施行	2. 31
	大 14. 4. 28	企救郡板櫃町（槻田及び板櫃の一部を除く）を編入	22. 15
	昭 2. 4. 1	企救郡足立村を編入	36. 15
	〃 12. 9. 1	企救郡企救町を編入	63. 14
	〃 16. 4. 1	企救郡中谷村・西谷村を編入	123. 50
	〃 17. 5. 15	企救郡曾根町を編入	180. 61
	〃 23. 9. 10	企救郡東谷村を編入	215. 19
〃 24. 9. 1	千仏内の蔵の一部を行橋市へ割譲	214. 42	
若松	明 22. 4. 1	町村制施行により、若松村となる	
	〃 24. 2. 1	町制施行	
	〃 31. 10. 1	遠賀郡石峰村のうち大字修多羅を編入	
	〃 39. 10. 1	遠賀郡石峰村を編入	
	大 3. 4. 1	市制施行	15. 58
昭 6. 8. 1	遠賀郡島郷村を編入	56. 06	
八幡	明 22. 4. 1	町村制施行により、尾倉村・大蔵村・枝光村を合併、八幡村となる	
	〃 33. 2. 15	町制施行	
	大 6. 3. 1	市制施行	20. 51
	〃 14. 4. 28	企救郡板櫃町の一部（槻田及び板櫃の一部）を編入	22. 92
	〃 15. 11. 2	遠賀郡黒崎町を編入	38. 55
	昭 12. 5. 5	遠賀郡上津役村を編入	57. 30
	〃 19. 12. 8	遠賀郡折尾町を編入	75. 34
〃 30. 4. 1	遠賀郡香月町・鞍手郡木屋瀬町を編入	106. 89	
戸畑	明 22. 4. 1	町村制施行により、中原村・戸畑村を合併、戸畑村となる	
	〃 32. 6. 10	町制施行	
	大 13. 9. 1	市制施行	7. 93
北九州市	昭 38. 2. 10	北九州五市合併、同年4月1日政令指定により区制施行	452. 22
	〃 40. 10. 1	建設省国土地理院の公表面積	456. 90
	〃 45. 10. 1	建設省国土地理院の公表面積	465. 63
	〃 49. 4. 1	行政区再編成により7区制施行、埋立地を市域へ編入 ※行政区再編成により小倉区を廃止し、南北に分割。小倉北区・小倉南区を新設 ※行政区再編成により八幡区を廃止し、東西に分割。八幡東区・八幡西区を新設 ※旧八幡区大字槻田の一部を小倉北区へ編入 ※旧小倉区大字小熊野の一部を八幡東区へ編入 若松区大字若松の一部（葛島）を八幡東区へ編入 戸畑区弘文町及び金比羅町の一部を八幡東区へ編入 ※若松区大字浅川及び大字小敷の一部を八幡西区へ編入 ※旧八幡区大字枝光の一部を戸畑区へ編入	470. 88
	〃 50. 10. 1	建設省国土地理院の公表面積	474. 77
	〃 55. 10. 1	国土交通省国土地理院の公表面積	477. 41
	〃 60. 10. 1	〃	480. 61
	〃 62. 10. 1	〃	481. 05
	〃 63. 10. 1	〃	481. 85
	平元. 10. 1	〃	481. 96
	〃 2. 10. 1	〃	482. 23
	〃 3. 10. 1	〃	482. 30
	〃 4. 10. 1	〃	482. 39

市（区）名	年月日	編入地域名	累加面積
北九州市	〃 5. 10. 1	国土交通省国土地理院の公表面積	482. 86
	〃 6. 10. 1	〃	482. 94
	〃 7. 10. 1	〃	482. 95
	〃 8. 10. 1	〃	483. 15
	〃 10. 10. 1	〃	483. 71
	〃 11. 10. 1	〃	484. 18
	〃 12. 10. 1	〃	484. 25
	〃 13. 10. 1	〃	485. 09
	〃 14. 10. 1	〃	485. 25
	〃 15. 10. 1	〃	485. 55
	〃 16. 10. 1	〃	486. 81
	〃 17. 10. 1	〃	487. 66
	〃 18. 10. 1	〃	487. 69
	〃 19. 10. 1	〃	487. 71
	〃 20. 10. 1	〃	487. 88
	〃 22. 10. 1	〃	487. 89
	〃 23. 10. 1	〃	488. 78
	〃 24. 10. 1	〃	489. 56
	〃 25. 10. 1	〃	489. 60
	〃 26. 10. 1	〃	491. 95
令元. 10. 1	〃	491. 69	
令 3. 1. 1	〃	491. 71	
令 4. 1. 1	〃	492. 50	

※国土交通省 国土地理院の公表面積については、累加面積に増減があったものを記載。

## 隣接市町との境界変更状況

本市は 3 市 7 町（中間市、直方市、行橋市、芦屋町、香春町、苅田町、鞍手町、福智町、水巻町、みやこ町）と境を接している。近年、隣接市町との境界線上の山林等において宅地造成が行われるため、境界の整理・明確化の問題がたびたび発生している。特に、境界まで開発が進んでいるうえ、境界線が入り組んでいる八幡西区において、それが著しい。

現在までの境界変更箇所は下表のとおりである。

### 境界変更箇所一覧表

場所	変更年月日	相手先	備考
八幡区大字下上津役	昭 47. 5 . 1	中間市	現在は八幡西区
八幡西区大字浅川	〃 49. 9 . 1	水巻町	
八幡西区大字浅川	〃 50. 2 . 1	水巻町	
八幡西区大字香月	〃 52. 1 . 1	中間市	通谷グリーンタウン
八幡西区大字折尾	〃 52. 1 . 1	水巻町	美吉野団地
八幡西区大字永犬丸	〃 53. 1 . 1	中間市	太賀団地
八幡西区大字香月	〃 53. 4 . 1	中間市	希望ヶ丘分譲地
八幡西区大字香月	〃 53. 4 . 1	中間市	中間南小学校
八幡西区大字浅川、大字折尾	〃 53. 9 . 1	水巻町	折尾ネオポリス
八幡西区大字下上津役	〃 56. 1 . 1	中間市	
八幡西区春日台六丁目	〃 60. 1 . 1	中間市	
若松区高須西一丁目、高須西二丁目	〃 61. 1 . 1	芦屋町	
八幡西区大字則松	〃 61. 6 . 1	水巻町	
八幡西区大字楠橋	〃 63. 1 . 1	中間市	
八幡西区船越二丁目	平元. 4 . 1	中間市	
八幡西区美吉野	〃 6 . 2 . 23	水巻町	
八幡西区美吉野	〃 7 . 2 . 1	水巻町	
八幡西区大字楠橋	〃 8 . 2 . 1	中間市	
八幡西区泉ヶ浦三丁目	〃 12. 1 . 1	水巻町	
八幡西区星ヶ丘五丁目、星ヶ丘六丁目	〃 20. 10. 1	直方市	
小倉南区大字新道寺	令元. 8 . 5	苅田町	

## 区の特徴

### 門 司 区

門司という地名が文献に見えたのは、796年（延暦15年）11月21日の太政官符の中です。

これは、文字どおり“門を司る”つまり関所の意味で、太宰府から都にいたる道中で、もっとも重要な土地だったため、この地名がうけつがれ、門司村、文字ヶ関村、門司町、そして門司市となり現在にいたっています。



旧大阪商船ビル

門司港は明治に開港し、長い歴史があります。また、門司港レトロエリアには旧大阪商船ビルをはじめ、明治から大正にかけて建てられた建築物が今でも多く残っており、年間200万人以上が訪れる観光地となっています。

門司区は、三方を海に囲まれ、多くの自然に恵まれた風光明媚なところです。関門海峡は「壇ノ浦の戦い」で知られた平家滅亡の歴史的な地であり、また潮の流れが非常に速く、鳴門海峡、来島海峡と並んで日本三大強潮流として知られています。下関市との距離が最も近い関門橋付近は早鞆瀬戸と呼ばれ、幅もわずか650mと狭く、潮流の速さも10ノット（時速18km）を超えることがある海上交通の難所ですが、一日平均500隻の船が航行しています。関門海峡の潮騒と外航船の汽笛は、環境省の「残したい“日本の音風景100選”」にも選ばれています。

門司港は、明治22年に国の特別輸出港に指定され、世界各国に定期航路を持つ国際貿易港として発展してきました。現在でも、門司区には西日本有数の規模を誇る太刀浦コンテナターミナル、関東・関西方面への定期フェリー基地である新門司フェリーターミナルや、新門司自動車物流センター、また陸上輸送では、本州と九州の鉄道網の結節点という立地条件からJR貨物の全九州の物流拠点である「北九州貨物ターミナル駅」を有し、日本有数の物流拠点となっています。

大正ロマン漂う街・門司港レトロ地区は、約6年の保存修理工事を経て復原され、平成31年3月にグランドオープンした「門司港駅」や、「旧門司三井倶楽部」、「旧大阪商船」、「旧門司税関」など、往時の門司の繁栄を偲ばせる歴史的建造物をはじめ、旧九州鉄道本社社屋を転用した「九州鉄道記念館」、世界的なイタリアの建築家アルド・ロッシ設計の「プレミアホテル門司港」、友好都市中国・大連市にあるロシア建築を複製した「大連友好記念館（旧国際友好記念図書館）」、海峡をまるごと楽しむ体験型博物館「関門海峡ミュージアム（令和元年9月21日リニューアルオープン）」などが建ち並んでいます。また、平成21年4月に北九州銀行レトロライン「潮風号」が運行を開始、平成25年7月には「旧大連航路土屋」、平成26年4月には「三宜楼」がオープンしました。

このほか、大里地区には、門司駅海峡側に国の登録有形文化財である「旧サッポロビール九州工場」の門司麦酒煉瓦館や周辺の煉瓦建築物が残っており、商業施設、住宅地、公園などの整備も進み、門司区の新しい顔として、「大里赤煉瓦タウン」の愛称で親しまれています。門司港レトロ地区とあわせて回遊性のある観光スポットとして注目を集めています。

さらに、新門司地区は、豊かな自然環境の中で農業や漁業が盛んであり、「豊前本ガニ」、「豊前海一粒かき」などの特産品や部埼灯台などの史跡も多く存在する魅力あるスポットです。

また、平成29年4月には門司をはじめ、若松、下関の全42件の施設や文化等が「関門ノスタルジック海峡～時の停車場、近代化の記憶～」として、文化庁の「日本遺産」に認定されました。これを好機として、関門エリアの魅力が国内外に一層広がり、更なる賑わいの場となることが期待されます。

門司区では、このような地域の資源と特性を活かしながら、「訪れてみたい、住んでみたい、住み続けたい」まちの実現に努めています。

## 小倉北区

「小倉」という地名の由来は、上代皇室の領田にできた穀物を納めた屯倉（みやけ）といわれる「倉」それも「小さな倉」が足立山麓にあったからという説や「企救の浦」が「こくの浦」となり、更に転化して「こくら」になったという説があります。



小倉城

小倉城と紫川周辺エリアでは、歴史や文化、水や緑などを活かした、多様な楽しさと快適さ、賑わいが共存する小倉都心部を象徴する魅力づくりを進めています。

北九州市の都心である小倉北区は、中津街道や長崎街道をはじめ九州五街道の起点であり、「九州の道は小倉に通じる」と言われていたほど、古くから陸上交通の要衝でした。また、江戸時代から細川藩、小笠原藩の城下町として発展してきたまちで、現在も残る魚町、古船場町、馬借、米町などの地名は、往古のにぎわいの名残です。

小倉北区の玄関口であるJR小倉駅は、新幹線並びにJR九州の鹿児島本線と日豊本線の接続駅であり、モノレールも乗り入れるなど九州の拠点駅となっています。新幹線口には、アジア太平洋インポートマート（AIM）・西日本総合展示場・北九州国際会議場・大型ホテルなどが立地し、国際コンベンションゾーンが形成され、小倉城口には商業施設・商店街・繁華街・オフィス街が広がるなど、小倉駅周辺は九州で有数の商業・金融・情報等の集積地として、昼夜を問わず多くの市民でにぎわう北九州市の顔となっています。

一方、城下町小倉の象徴である小倉城の周辺は、紫川や勝山公園などの自然と、小倉城庭園や文学館、松本清張記念館、平和のまちミュージアム、J:COM北九州芸術劇場があるリバーウォーク北九州、西日本工業大学等、歴史・文化・商業・大学などの多様な施設が充実しており、市民の人気スポットになっています。

また、都心部を流れる紫川は、アユやシロウオが遡上し、上流ではホタルが舞うなど、都心のオアシスとして市民にとってなくてはならない憩いの水辺となっています。小倉南区との境に位置する足立山の一角にある小文字山では、山頂で「小」の文字を模った「小文字焼」がお盆の小倉の夜に浮かびます。

小倉都心部では、夏には「わっしょい百万夏まつり」や、400年以上の歴史と伝統を誇る「小倉祇園太鼓」が行われ、祭り好きの小倉っ子の胸を高鳴らせます。冬には、小倉の風物詩として定着した「小倉イルミネーション」のきらめく美しい光がまち一帯を彩ります。

また、「北九州マラソン」、「北九州ポップカルチャーフェスティバル」、「TGC北九州」などの大規模イベントが開催され、都心のにぎわいづくりが進められています。中でも、約15,000人の収容が可能な「ミクニワールドスタジアム北九州」では、ラグビートップリーグやJリーグ・ギラヴァンツ北九州などの試合、わっしょい百万夏まつり前夜祭の花火打ち上げなど、様々なイベントが開催され、都心部の新たなにぎわいを創出しています。

このように、小倉北区は商業や金融、情報、コンベンションなど、都心としての機能が集積していると同時に、自然や水辺に恵まれ、歴史と文化にあふれる魅力あるまちです。

小倉北区では、北九州都市圏の中核として、また国際化時代の交流拠点として、高次な都市機能・医療機能の充実、まちの顔となる景観づくり、にぎわいのあるまちづくりに取り組むとともに、安全・安心に暮らせるまちづくりを進め、「にぎわいのある北九州のシンボルのまち」の実現に努めていきます。

## 小倉南区

昭和 49 年 4 月 1 日、それまでの小倉区は行政区再編成によって南北に分区されました。そのとき、区名について審議されましたが、すでに市民に親しまれている「小倉」をなくすことは、かえって市民に混乱を起こさせるのではないかとの配慮もあって、小倉の名称をそのまま残し「小倉南区」と「小倉北区」になりました。



平尾台

日本有数のカルスト地形です。羊群原と呼ばれる独特の景観を形成し、希少生物の生息地でもあります。

市内最大の面積を持つ小倉南区は、北九州国定公園を構成する日本三大カルストのひとつ“平尾台”や、カブトガニなど希少生物が多く生息する曾根干潟など、雄大な自然や美しい田園風景が広がり、四季折々の風景を楽しむことができます。

平尾台には、山歩きを楽しむトレッキングや鍾乳洞を探検するケイビングを楽しむ方などが訪れており、平成 22 年から開催している「北九州・平尾台トレイルランニングレース」は、国内はもとより海外からも選手が出場するなど非常に人気の高いレースとなっています。曾根干潟は、野鳥の宝庫として有名で、世界的にも希少なズグロカモメなどの越冬地となっており、バードウォッチングで賑わいます。多種多様な生物が生息する干潟は環境教育の場でもあります。

これらの豊かな自然環境は、新鮮な農林水産物を育み、全国的に有名な「合馬たけのこ」をはじめ、「大葉春菊」、「小倉牛」、「豊前海一粒かき」、「豊前本ガニ」など、本市の特産品として市内外で多くの人に親しまれています。

昔から農業が盛んな地域であったことから、豊作や雨乞いを祈願する「楽」（がく）、神々に奉納する「神楽」（かぐら）、盆踊りや神幸行事などの伝統芸能が、地域の宝として継承されるとともに、遺跡や古墳といった史跡・文化財も多く、郷土の歴史を身近に感じながら学ぶことができます。

一方で、昭和 60 年に開業した北九州モノレールをはじめ、鉄道路線（JR 日豊本線・JR 日田彦山線）が走るなど交通の利便性が高く、沿線を中心に住宅や商業施設が集積しています。

また、臨空産業団地や北九州空港跡地産業団地などの産業団地を有し、自動車産業関連企業をはじめとした各種企業の立地が進んでいます。平成 28 年の東九州自動車道の全線開通（北九州～宮崎）は、人の交流や物流面で、小倉南区が持つ可能性を一層拡大するものとなりました。

加えて、平成 18 年に開港した北九州空港は、24 時間利用可能な海上空港として高い機能性、将来活用可能な広大な土地を有しています。その特性を生かし、旅客便の誘致に加え、大型貨物機の長距離運航を可能とする滑走路の 3,000m 化など、物流拠点化に向けた取組が進んでいます。

こうした動きを背景に外国人観光客の来訪も視野に入れ、平尾台では平成 29 年、本市の国家戦略特区の民泊第 1 号が認定され、自然観光資源を活用した新たなにぎわいづくりが始まりました。

さらに、雄大な自然と充実した都市基盤がもたらす快適な住環境には、北九州市立大学をはじめ、北九州工業高等専門学校などの教育機関が多く集まっています。平成 30 年には、小倉南区役所や小倉南生涯学習センターなどの公共機関が集まる若園エリアに「小倉南図書館」が開館し、郷土資料室には、「Mr. トルネード」として著名な小倉南区出身の藤田哲也博士の胸像が設置されています。加えて、障害児（者）の療育・医療の中核施設として、全国的に高い評価を受けている「北九州市立総合療育センター」が、利用者の増加やニーズの多様化・拡大化に対応するため、病床数の増床や診療体制の充実など機能を強化し、再整備されました。

また、各校区では、自治会等が中心となって夏祭りや文化祭等が開催されるなど、良好な地域コミュニティの形成に努めるとともに、防災訓練や青色防犯パトロールなど、地域が積極的に安全・安心に暮らせるまちづくりに取り組んでいます。

都市機能や住環境、歴史、文化、自然、食、地域コミュニティなど、小倉南区が持つ地域資源を生かし、磨き上げることで、個性が輝く、魅力あるまちづくりを進めていきます。

## 若 松 区

仲哀天皇と神功皇后が熊襲（くまそ）を征伐したとき、洞の海に靈石を発見しこれを神体としてまつり、神社の海浜に、小松を植えました。このときお供の武内宿禰が「海原の滄溟たる、松の青々たる、我が心も若し。」といったので、これ以後、ここが「若松」といわれたと、恵比須神社縁起に書かれています。



### 若松南海岸通り

「旧古河鉱業若松ビル」をはじめ、明治・大正期の建築物が連なり、石炭景気に沸いた若松の歴史と発展を伝えています。

若松区は北九州市の北西部に位置し、洞海湾と響灘に囲まれ、東部には古墳が散在するなどその歴史は古く、高塔山公園から石峰山系をへてグリーンパークまでの緑豊かな自然に恵まれたところです。若松北海岸は、玄海国定公園に含まれ、響灘の激浪に刻まれた玄武岩、露出した岩礁の眺めが美しく景勝の地として市民に親しまれています。

若松南海岸通りは、「旧古河鉱業若松ビル」などをはじめ、かつて日本一の石炭積出港として栄えた若松の歴史を伝える明治・大正期の建築物が連なり、若戸大橋を望む景観は大変素晴らしいものとなっています。若松北海岸には、水と緑にあふれた市内最大の総合公園である響灘緑地の「グリーンパーク」「ひびき動物ワールド」や、市内では若松区にしかない海水浴場である岩屋、脇田海水浴場や温泉宿泊施設があり、市民の憩いの場として親しまれています。また響灘地区には、市内最大規模の「ひびきコスモス運動場」（5.8ヘクタール、ソフトボール8面、サッカー6面）があり、全国規模のスポーツ大会が開催できます。

文化の面では、若松が生んだ芥川賞作家・火野葦平の資料館が若松市民会館内にあり、葦平ゆかりの資料が展示されています。また、当時の姿のままに復元された葦平の旧居「河伯洞」も一般公開されており、多くの葦平ファンが訪れています。

葦平が生前こよなく愛した若松のシンボル「高塔山」は、「若松あじさい祭り」の会場としても区民に親しまれ、近年は、メインの登山道路の拡幅を進めるなど再整備を実施しています。山頂から望む展望は市内有数の景観であり、若松の街並みはもとより若戸大橋・響灘・関門海峡が一望できます。「河童の隠した宝石箱」というキャッチコピーがついた夜景は、無数の宝石を散りばめたような美しさで、平成25年7月、「日本夜景遺産 ㊤」に認定されました。山頂には、葦平文学碑・万葉植物園・河童封じの地蔵尊などがあり、四季折々の花が美しく咲き誇っています。この麓には、石炭の神様と言われ、後半生を社会貢献に捧げた佐藤慶太郎の旧居跡が「佐藤公園」となっており、市民に親しまれています。

また、平成30年12月に市民の念願であった若戸大橋・若戸トンネルが無料化となり、産業活動の活性化や市民生活の利便性の向上などに繋がっています。若戸大橋は無料化と同時にライトアップが始まり、令和4年2月には歴史的・技術的見地から重要であるとの評価を受け、国の重要文化財に指定されました。

農業では、トマト・キャベツ・ブロッコリー・スイカなどの生産が盛んで、中でもキャベツやトマトは地域特産品としてのブランド化が進んでいます。また沿岸は良好な漁場であり、漁業も盛んで、あかもく（海藻）・かき・あわびなどの特産品もあります。

北東部の響灘沿岸は、港湾・産業用地としての大規模な埋め立て地があり、物流・加工組立関連の多くの企業が進出しています。また、現在市が積極的に取り組んでいる「北九州市地域エネルギー拠点化推進事業」の一環として大規模な洋上風力発電所建設に向けた関連施設の整備が進められるなど、本市の成長を支える「地域エネルギーの中心拠点」として位置づけられるとともに、響灘ビオトープ【自然共生】やエコタウンの環境産業【資源循環】に加え、大型太陽光発電や風力発電施設【脱炭素】が集積する、アジアの「グリーンショールーム」となっています。

西部地区では、周辺の自然環境や都市環境を生かしながら、先端科学技術に関する教育・研究機関の集積と良好な住宅地の供給を同時に行うなど、未来をひらくアジアの学術研究都市としてひとときを輝かせる総合的なまちづくりが進んでいます。

このように若松区は、人・自然・産業が共存するまちへ大きく生まれ変わろうとしています。

## 八幡東区

市制・町村制の実施に伴い、明治22年に枝光村、大蔵村、尾倉村が合併し八幡村が誕生しました。名前の由来は、三村とも産土（うぶすな）神として八幡神社を祭っていたためと当時の合併調書にあります。その後、明治33年八幡町となり、前田地区を編入した後、大正6年（1917年）、八幡市となりました。



写真提供：日本製鉄（株）九州製鉄所

### 世界遺産に登録された官営八幡製鐵所「旧本事務所」 （非公開施設）

八幡東区は昭和49年の旧八幡区の分割により誕生しました。さかのぼれば、明治34年、この地に官営八幡製鐵所が誕生し、以来、鉄鋼を中心とした産業を背景にわが国の経済成長を支え続けてきました。このような近代産業の発展の歴史を未来につなぎ、八幡東区の特長や魅力的な資源を活かした「産業・地域の活性化」を目指して、市民・企業・各種団体・行政の一体となった取り組みが行われています。平成29年度には、旧八幡市制100周年記念事業のひとつとして、概ね30年後の次世代の暮らしを想定した「八幡東まちづくりプラン」が策定されました。

八幡東田地区は、平成27年7月に世界文化遺産に登録された官営八幡製鐵所関連施設を有し、タカミヤ環境ミュージアムや自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）、スペースLABO（北九州市科学館）などの文化施設に加え、ジアウトレット北九州などの商業施設も集積しており、多くの市民や観光客でにぎわっています。

平野地区では、独立行政法人国際協力機構（JICA）九州センターや公益財団法人北九州国際技術協力協会（KITA）、九州国際大学などの集積により、海外から研修員や留学生の受け入れが行われています。また、JR八幡駅前地区では、平成28年5月、国家戦略特区指定に伴うプロジェクト事業として、国際通り沿いにある幅員の広い歩道を活用し、テーブルやイスを設置した休憩スペース（憩いの場）を提供する取り組みが行われるなど、地域団体による様々なイベントが実施されています。桃園公園では、市内唯一の公認50m室内プールである「グローバルマーケットアクアパーク桃園（桃園市民プール）」の令和2年のリニューアルに続き、令和6年5月には、桃園武道場が開設されました。同公園では、広場や庭球場などの施設の再整備も予定されています。

高見地区では、高品質な住宅市街地と、エリア内を流れる板櫃川に子どもの自然体験の場となる「水辺の楽校」が整備されています。

皿倉河内地区は、豊かな自然に恵まれ、皿倉山からの夜景が新日本三大夜景に選ばれるなど、市民の憩いの場として親しまれてきました。平成28年5月、「皿倉山リニューアル計画」が策定され、平成29年12月、駐車台数を178台に拡張した3階建ての立体駐車場（山麓駅前）が完成しました。今後、山頂では、草そり・展望遊具などの遊び場の整備や天空ドームの改修など、主要施設を整備することとしています。また、平成30年10月には皿倉山の景勝ポイントの中から、皿倉山に来られた方の投票をもとに人気の高かった見所「皿倉八景」を決定しました。河内貯水池周辺にはサイクリングロードやせせらぎ広場、近年海外の観光客から注目されている河内藤園などもあり、休日をのんびり過ごすのに最適です。貯水池にはめがね橋とも呼ばれる「南河内橋」（平成18年国指定重要文化財、平成19年国認定近代化産業遺産）や三連アーチの「中河内橋」が架かるなど、自然に溶け込む建造物の美しさも見どころです。

八幡東区は、令和6年3月に策定した北九州市・新ビジョンの中で定めた、区のまちづくりの方向性に基づき、区が持つ魅力やポテンシャルを生かしたまちづくりを進めていきます。

## 八幡西区

昭和 49 年 4 月 1 日、それまでの八幡区は行政区再編成によって東西に分区されました。そのとき、区名について審議されましたが、すでに市民に親しまれ愛称とされている「八幡」をなくすことは、かえって市民に混乱を起こさせるのではないかの配慮もあって、八幡の名称をそのまま残し「八幡西区」と「八幡東区」になりました。



### 曲里の松並木

曲里の松並木を含む砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロードは、令和 2 年 6 月に日本遺産に選定されました。

八幡西区は本市の西部に位置し、遠賀川を望みつつ、直方市、中間市など 2 市 3 町 3 区と境を接しています。北九州市域の中でも比較的平坦な地形を有しており、本市では最も人口の多い区となっています。

黒崎地区は、八幡西区の中心市街地であり、本市の西部地域における広域集客拠点として副都心に位置付けられています。江戸時代には長崎街道の宿場町として栄え、近代には洞海湾沿いに工業地帯が形成され、日本を代表する企業が立地するなど都市化が進みました。鉄道や路線バス、幹線道路が通る交通の要衝であり、直方・飯塚や遠賀・宗像地域を商圏として発展してきました。近年では、マンションの建設や生活利便施設、医療機関の集積により、「住みたいまち」としての魅力が高まっています。

黒崎駅から続くペDESTリアンデッキや黒崎商店街では、国家戦略特区の認定を受けたまちづくり団体等により、一年を通じて様々なイベントが行われています。

また令和 2 年 6 月に日本遺産の認定をうけた砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロードにある市指定史跡の「曲里の松並木」や、県指定文化財の「黒崎城跡」など、貴重な歴史的資源も多く存在しています。

折尾地区は、大学、短期大学、高等学校などが集中し、学園都市として発展を続けています。鹿児島本線、筑豊本線の分岐点にあたる折尾駅周辺では、折尾地区総合整備事業の実施により、学園都市の玄関口にふさわしい地域拠点として再整備が進んでいます。令和 3 年 1 月に JR 折尾駅新駅舎の供用が開始され、令和 4 年 3 月に鉄道高架化、令和 5 年 4 月には折尾駅北側駅前広場が完成しました。また、地域の特性を生かした祭りなども盛んであり、駅からのびる学園大通りのにぎわい創出を目指し、地域の大学や自治区会、商連、まちづくり団体等が連携した取り組みも行われています。

令和元年に歴史の道百選に選定され、一部が県指定史跡の堀川周辺は、開削着工から 400 年以上を経た現在も多くの史跡が残っており、歴史を身近に感じ学ぶことができます。

永犬丸・沖田～上津役地区は、瀬板の森公園や金山川などの身近な自然と、筑豊電気鉄道の開通や土地区画整理事業の実施により開発された良好な住宅地が共存したまちづくりが進んでいます。金山川沿いでは、河川愛護団体の花を植える活動により、春はチューリップ、秋はコスモスを楽しむことができます。

八幡南地区は、藤の名所・吉祥寺や市内有数のほたるの飛翔地・黒川、森林浴を楽しめる畑貯水池などの豊かな自然に恵まれています。木屋瀬エリアでは、長崎街道宿場跡の古い町並みが多く残されており、歴史を活かしたまちづくりを展開しています。また、長崎街道木屋瀬宿記念館は、貴重な郷土の資料を保存展示しており、地域文化活動の拠点にもなっています。

八幡西区では、このような地域の特色や資源を活かしながら、歴史と文化に彩られたにぎわいあふれるまちづくりを進めていきます。

## 戸畑区

“ほととぎす とばたのうらに しくなみの  
しばしばきみを みむよしもがも”

(万葉集より)

大正時代まで、名護屋岬から中原にかけては、白砂青松の美しいなぎさつづきでした。波の数ほど幾度でもあの人に逢いたいと願った若者の姿が目に見えかけます。大渡川（今の洞海湾）の入口に「飛幡」「鳥旗」の地名があったことが日本書紀、筑前風土記などにありますが、慶長年間の筑前古図では「戸畑村」となっています。



### 戸畑祇園大山笠

約 220 年の歴史を持つ戸畑祇園。毎年 7 月の第 4 土曜日には、戸畑祇園大山笠競演会が行われています。12 段 309 個の提灯大山笠が、夏の夜空を彩る姿は圧巻です。

戸畑区は北九州市のほぼ中央に位置し、面積は約 16.6 km<sup>2</sup>。北側は区域の約 45%を占める日本製鉄(株)九州製鉄所、南側は八幡東区との境をなすようになだらかな丘陵が続く比較的平坦な市街地となっています。

戸畑は、明治の初期までは半農半漁の静かな村でしたが、明治 34 年、八幡に官営八幡製鐵所が開所して以来、鑄造、製鉄、硝子及び遠洋漁業などの企業が次々と進出し、急速に工業都市として発展しました。また、市街地の都市基盤整備も進み、7 区の中で最も早く完成された都市としての形態を成しました。今では国指定重要文化財の旧松本家住宅（西日本工業倶楽部）、旧安川邸（令和 4 年 4 月より一般公開）や北九州市立美術館などの歴史・文化施設がそろい、落ち着いた環境の住宅都市となっています。

また、将来を見据え、魅力を高めるためのまちづくり事業も着実に進められました。

戸畑駅周辺においては、戸畑駅をはじめ、多世代共生のまちづくり・にぎわいの文化拠点である「ウェルとばた」などが完成しました。さらに、戸畑区役所を中心としたエリアを“福祉・文化ふれあいの戸畑核”と位置付け、エリアを 4 つの街区に分け、各街区で整備を進めました。平成 19 年、「ふれあいの丘」を中心に、新戸畑区役所をはじめ、保育所、障害者地域活動センター、高齢者複合施設、民間・分譲賃貸マンションなどが完成し、「多世代交流をテーマとした新しいまち」が誕生しました。

旧戸畑区役所庁舎については、歴史ある外観を残しながら、新たに戸畑図書館として平成 26 年 3 月にオープンしました。また、平成 28 年 9 月には旧浅生小・中学校等跡地に第一警備スポーツセンター戸畑（浅生スポーツセンター）が開館し、平成 31 年 3 月には、浅生球場跡地に多目的広場がオープンし、区役所周辺が憩いの場としてリニューアルされました。

戸畑といえば、国の重要無形民俗文化財に指定されている「戸畑祇園大山笠」。平成 28 年にはユネスコ無形文化遺産にも登録されました。昼は山笠本来の姿といわれる幟山笠で、金糸銀糸の刺繍を施した格調高く華麗な姿をしています。夜には 12 段 309 個の提灯に彩られた光のピラミッドへと姿を変えます。7 月の第 4 土曜日の競演会では 4 基の大山笠と中学生が担ぐ小若山笠 4 基の計 8 基が勢ぞろいし「ヨイトサ、ヨイトサ」の掛け声とともに豪快に練り歩きます。

また、戸畑区は、花と緑のまちでもあります。市街地のほぼ中央にあり、市民の憩いの場である夜宮公園では、2 月は戸畑の市街地を一望しながらの梅、4 月初旬は公園中に咲き誇る満開の桜を觀賞できます。また、4 月下旬から 5 月上旬にかけては、公園横の「なんじゃもんじゃ通り」で濃いピンクのツツジと純白のヒトツバタゴ並木の素晴らしいコントラストを楽しめ、続いて 6 月には夜宮池と日本庭園で約 30 種 2 万本のあでやかな花菖蒲が咲き誇るなど、四季折々に美しい花々が彩り、さらに秋には園路の紅葉を楽しむことができます。

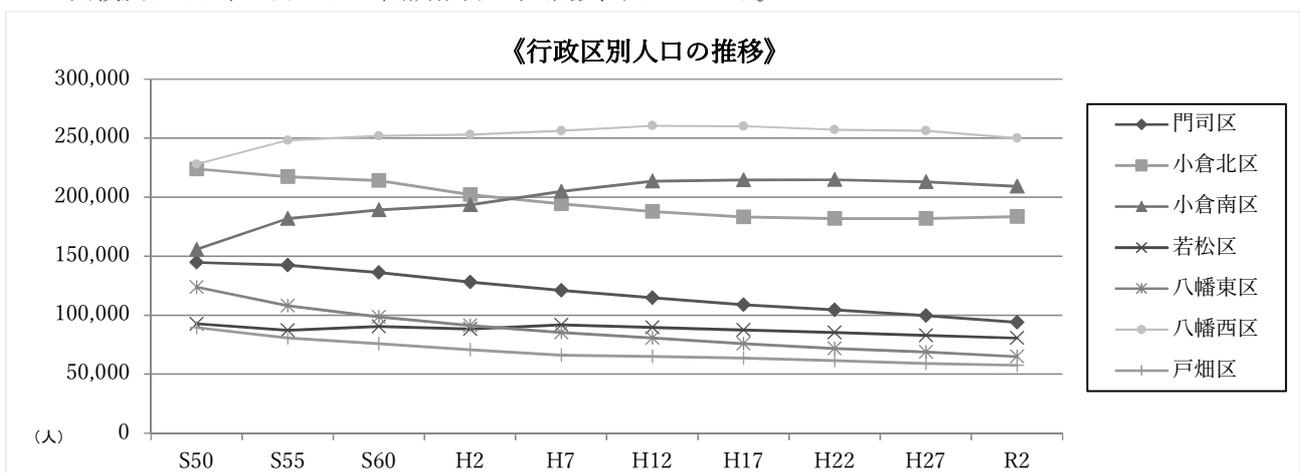
そして、5 月初旬、大谷地区の「戸畑あやめ公園」等、区内数箇所でも可憐に開花するのは、「伝説の花・戸畑あやめ」です。明治末期まで戸畑区原野で自生していましたが、その後の都市化により絶滅したものと考えられていました。ところが昭和 33 年に市民の手により発見され、以来、地域の人たちによって大切に守り育てられてきました。そして平成 21 年 12 月、戸畑あやめにアヤメの 1 新変種として「戸畑」の名を冠した学名「イリス・サンギネア・バラエティー・トバタエンシス」がつけられました。これを機に、戸畑区では花と緑のまちづくりをさらに進めています。

## 面積・世帯数・人口の推移

行政区		北九州市	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
旧五市 市制 施行当時	施行年月日	-	M32. 4. 1	M32. 4. 1		T3. 4. 1	T6. 3. 1		T13. 9. 1
	面積 km <sup>2</sup>	-	11. 32	2. 31		15. 58	20. 51		7. 93
	世帯数	-	5, 415	4, 315		6, 258	17, 642		7, 684
	人口	-	29, 290	30, 075		37, 393	84, 682		38, 612
昭和38年 五市合併	面積 km <sup>2</sup>	452. 22	65. 93	206. 81		56. 47	110. 53		12. 48
	世帯数	252, 903	39, 219	77, 015		25, 446	84, 484		26, 739
	人口	1, 024, 595	155, 232	307, 137		106, 617	345, 815		109, 794
昭和50年	面積 km <sup>2</sup>	474. 77	69. 78	39. 29	168. 63	57. 62	36. 59	84. 61	18. 25
	世帯数	323, 856	44, 229	73, 426	45, 302	26, 974	38, 713	66, 937	28, 275
	人口	1, 058, 058	144, 697	223, 869	155, 727	92, 642	123, 824	227, 872	89, 427
昭和55年	面積 km <sup>2</sup>	477. 41	70. 27	39. 73	168. 73	58. 80	36. 73	84. 67	18. 48
	世帯数	351, 310	46, 450	79, 123	55, 604	27, 023	36, 450	78, 519	28, 141
	人口	1, 065, 078	142, 222	217, 204	181, 740	87, 166	107, 880	248, 069	80, 797
昭和60年	面積 km <sup>2</sup>	480. 61	70. 55	39. 77	168. 73	61. 68	36. 73	84. 67	18. 48
	世帯数	358, 382	45, 541	80, 126	59, 387	28, 927	34, 398	82, 651	27, 352
	人口	1, 056, 402	136, 011	214, 149	189, 236	90, 519	98, 579	251, 985	75, 923
平成2年	面積 km <sup>2</sup>	482. 23	72. 47	39. 21	169. 33	65. 16	36. 36	83. 04	16. 66
	世帯数	367, 341	45, 124	80, 333	64, 314	29, 226	33, 355	87, 880	27, 109
	人口	1, 026, 455	127, 895	202, 051	193, 444	88, 264	91, 146	253, 018	70, 637
平成7年	面積 km <sup>2</sup>	482. 95	72. 60	39. 25	169. 33	65. 71	36. 36	83. 04	16. 66
	世帯数	388, 741	45, 188	82, 871	72, 588	31, 607	33, 629	95, 726	27, 132
	人口	1, 019, 598	120, 890	194, 194	204, 975	91, 755	85, 405	256, 176	66, 203
平成12年	面積 km <sup>2</sup>	484. 25	73. 37	39. 23	169. 35	66. 24	36. 36	83. 04	16. 66
	世帯数	408, 080	45, 776	85, 432	80, 348	32, 272	34, 043	102, 090	28, 119
	人口	1, 011, 471	114, 750	187, 684	213, 372	89, 560	80, 608	260, 452	65, 045
平成17年	面積 km <sup>2</sup>	487. 66	73. 37	39. 27	170. 89	68. 07	36. 36	83. 04	16. 66
	世帯数	413, 510	44, 364	87, 459	83, 716	32, 754	32, 959	103, 841	28, 417
	人口	993, 525	108, 677	183, 286	214, 624	87, 340	75, 814	260, 070	63, 714
平成22年	面積 km <sup>2</sup>	487. 89	73. 37	39. 28	170. 89	68. 29	36. 36	83. 04	16. 66
	世帯数	420, 702	44, 232	89, 036	86, 420	33, 495	32, 142	107, 313	28, 064
	人口	976, 846	104, 469	181, 936	214, 793	85, 167	71, 801	257, 097	61, 583
平成27年	面積 km <sup>2</sup>	491. 95	73. 67	39. 23	171. 74	71. 31	36. 26	83. 13	16. 61
	世帯数	426, 325	43, 082	91, 253	88, 497	33, 692	31, 442	110, 562	27, 797
	人口	961, 286	99, 637	181, 878	212, 850	82, 844	68, 844	256, 117	59, 116
令和2年	面積 km <sup>2</sup>	491. 69	73. 67	39. 23	171. 48	71. 31	36. 26	83. 13	16. 61
	世帯数	436, 245	43, 268	96, 175	91, 065	34, 128	30, 394	112, 674	28, 541
	人口	939, 029	93, 842	183, 407	209, 028	80, 533	64, 792	249, 933	57, 494

資料：政策局総務国際部総務課

(注) 世帯数、人口は国勢調査による。面積は、各年10月1日現在による。ただし、昭和38年は、37年10月1日の面積及び38年2月1日の国調推計の世帯数、人口による。



区の面積・世帯数及び人口（令和6年4月1日現在）

行政区	面積 (A) km <sup>2</sup>	世帯数 (B)	人			一世帯当り 構成員 (C/B)	人口密度 (C/A)
			総数 (C)	男	女		
北九州市	492.50	437,816	909,579	429,426	480,153	2.08	1,847
門司区	73.66	42,391	88,926	40,807	48,119	2.10	1,207
小倉北区	39.23	96,999	179,005	83,912	95,093	1.85	4,563
小倉南区	171.51	92,362	203,519	96,707	106,812	2.20	1,187
若松区	72.10	34,152	77,854	37,256	40,598	2.28	1,080
八幡東区	36.26	30,075	62,083	29,345	32,738	2.06	1,712
八幡西区	83.13	113,944	243,017	114,592	128,425	2.13	2,923
戸畑区	16.61	27,893	55,175	26,807	28,368	1.98	3,322

資料：政策局総務国際部総務課

(注1) 面積は令和6年1月1日現在。世帯数・人口は、推計人口による。

(注2) 面積は小数第三位を四捨五入するため、合計が一致しない場合がある。

(注3) 下記グラフの構成比は少数第三位を四捨五入しているため、合計しても100とならない場合がある。

